



ガイド04【防災】

大地震発生後の72時間を体験学習 災害時には緊急災害現地对策本部に

国営東京臨海広域防災公園

災害時と平常時で 役割が違う防災公園

東京臨海広域防災公園は、首都直下地震など、首都圏で大規模な災害が発生した場合、政府の「緊急災害現地对策本部」が設置され、川崎市東扇島地区に整備された緊急物資輸送拠点と連携して広域的な応急対策活動の調整を行う場所となります。

本部棟（防災拠点施設）には大規模災害発生時に緊急災害現地对策本部が運営するオペレーションルームなどのほか、政府が管轄する中央防災無線も設置されています。また、園地には面積約2.6haの大型ヘリコプターなどが離着陸できるヘリポートと7機分の駐車場があり、エントランス広場は災害



東京臨海広域防災公園センター長 山崎純一さん



身近なもので災害時に役立つものがつくれるワークショップ

時の医療支援用地として使用され、隣接するがん研有明病院とは災害時に連携することが決まっています。

とはいえ、平常時は、国営公園の面積6.7ha、隣接する都立公園の面積6.5ha、合計13.2haの広いスペースで、軽い運動やピクニック、バーベキューなどを楽しむことができます。

また、無料の防災体験学習施設「そなエリア東京」*を中心に、防災学習や訓練などさまざまなイベントが実施され、防災を身近に感じながら楽しく学ぶことができます。

取材に伺った日は、研修で多くの養護教諭の方が訪れていました。

「防災を考えたとき、根っこにあるのは人々の生活です。災害時の生活をどう支えるのか。本日は要援護者や要救助者といわれる高齢者やお体の不自由な方の援助に関わる方向けにセミナーを行っています」と、センター長の山崎純一さん。

海外からの注目度も高く、 年々増加する来園者

公園は平成22年7月に開設され、その半年後に東日本大震災が起こりました。このときは対策本部の設置はなかったものの、何があってもいいように、一般の方の立ち入りは禁止に。

23年は年間約19万人の来園者があり、翌24年は年間約28万人に。増加の背景には、防災意識の高まりのほかにも、園内でバーベキューができるようになったことも大きいそうです。

「なぜ炭焼きのバーベキューガーデンを設置したのかというと、美味しいだ

けではなく、屋外での炭焼き体験が炊き出しの体験にもつながるだろうと考えたからです。もちろん、来園者の皆さんには、美味しく楽しくバーベキューを体験していただくのが一番ですが」

「防災といえば日本」ということで、海外からの観光客（研修で来る人も）も多く、これまでに約34カ国の人が来園しているとのこと。ロビーの売店では、非常食や非常持ち出しグッズの販売も行っています。

臨場感がすごい！ 「東京直下72hTOUR」を 実体験。あなたは生き残れるか

実際に首都圏で直下型の大地震が起こったら、国や自治体などの支援体制が整うまで自力で生き残らなければなりません。支援体制が整うのは地震発生のおよそ72時間後とされています。では支援を受けることが困難なその72時間を生き残るためにはどうするのか。「そなエリア東京」の「東京直下72hTOUR」は、首都直下地震（冬の夕

*そなエリア東京…そなえる+エリアの造語。「ここでの体験と学習を通じて“災害をイメージする力”と“対応力”を身につけることで災害への備えにつながる場所」を意味しています。



シネマステーションで首都直下地震の再現CG映像を見た後、避難場所へ



地域には必ず防災倉庫があり、災害救助に役立つ用具などがあります。普段は鍵がかかっているので、地域の防災訓練時などに場所と中身を確認しておきましょう



ビルの外に出ると街が……被災した市街地の状況に再現だとわかっていても一瞬言葉が失います

「東京直下72h TOUR」で首都直下地震を疑似体験!!



さまざまなタイプの避難用トイレ。水が使えない事態も考えられるので、誰にとっても重要です



「リアルに地震が起きた後の市街地が再現されているため、無理はしないように」との説明。発災時は駅ビルにいる設定。どのような世界が広がっているのか、ドキドキ…



避難場所(展示ゾーン)には、防災倉庫、仮設トイレ、テントなどのほか、車のカバーや物干しざおなど家にある身近な物の活用法が展示されています

方6時、風速15m、マグニチュード7.3、最大震度6強の発生から避難までの一連の流れを体験できるツアーです。ツアーではニンテンドーDS®を利用

してクイズに答えながら進みます。スタッフの方から使い方を教えていざスタート!

防災学習ゾーンには、災害時に指

国営東京臨海広域防災公園に行ってみよう!

公園は有明駅からすぐ近く。白い鉄塔が目印です。

●行き方

りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分
ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分
※当施設に駐車場はございません

●利用時間

防災体験学習施設 9:30~17:00
(休館日:月曜日(祝日の場合翌日休館)、年末年始、臨時休館日あり)
園地の開園時間 6:00~20:00
(休園日:年末年始、臨時休園日あり)

●入園・入館料

無料

●お問い合わせ

管理センター: 03-3529-2180

●公園ホームページ

<http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/>



令本部となる本部棟のオペレーションルームを見学できる窓があります。防災ギャラリーでは、世界の防災用品が展示されています。またペットボトルを使って液化化をわかりやすく説明する展示もありました。この展示ギャラリーの展示台はキャスターがついた可動式。いざというときは展示物をすべて片づけ、緊急災害現地対策本部要員の休憩場所などにもなるそうです。



緊急災害現地対策本部のオペレーションルームも見学可能



屋上に出るとヘリポートを一望できる。手前の芝生広場でバーベキューができる

「そなエリア東京」の屋上になると、目の前に緑と東京湾が広がりとても気持ちが良いです。広い敷地を散策するもよし、大勢でバーベキューを楽しむもよし。その上で、防災についても楽しく学んでみませんか。